分冊文庫版

ルー＝ガルー2

インクブス×スクブス

相容れぬ夢魔

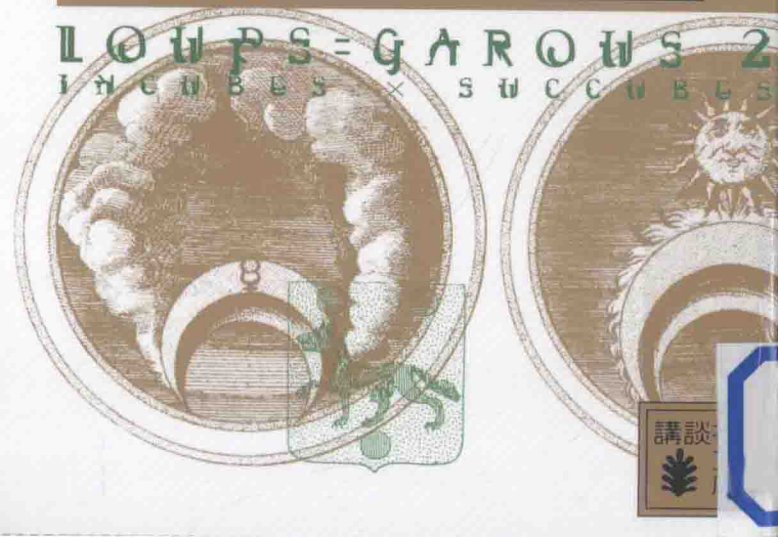
京極夏彦

Natsuhiko Kyogoku

下

LOUPS=GAROUS 2

INCUBES × SUCCUBES



講談

講談社文庫

常州大学図書館
藏書章

分冊文庫版

ルー＝ガルー2

インクブス×サクブス

相容れぬ夢魔(下)

京極夏彦

講談社

分冊文庫版　ルー=ガルー2　インクブス×スクブス　相容れぬ夢魔(下)
京極夏彦
© Natsuhiko Kyogoku 2011

講談社文庫
定価はカバーに
表示してあります

2011年10月14日第1刷発行

発行者——鈴木　哲
発行所——株式会社　講談社
東京都文京区音羽2-12-21　〒112-8001
電話　出版部（03）5395-3510
　　販売部（03）5395-5817
　　業務部（03）5395-3615
Printed in Japan

デザイン—菊地信義
本文データ制作—講談社デジタル製作部
印刷———凸版印刷株式会社
製本———株式会社若林製本工場

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277083-5

Contents

分冊文庫版　ルー＝ガルー2
インクブス×スクブス　相容れぬ夢魔（下）……5
解説　小谷真理……510

講談社文庫

分冊文庫版

ルー＝ガルー2

インクブス×スクブス
相容れぬ夢魔(下)

京極夏彦

講談社

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

Contents

分冊文庫版 ルー＝ガルー2
インクブス×スクブス
相容れぬ夢魔（下）……5
解説　小谷真理……510

分冊文庫版

ルー＝ガルー2

インクブス×スクブス
相容れぬ夢魔（下）

052

あまり良い環境とはいえなかった。
それでも息苦しい護送用移動機械の中よりはいい。安全なのかどうかは判らないけれど。
装飾性皆無の無機質な部屋は、空調だけは丁寧に効いているようで、開口部がほとんどない割にあまり息苦しい感じはしなかった。スチールパイプの素っ気ない椅子が十個も並んでいて、後は計器類しかない。ワークスペースに少し似ていた。
何のための部屋なのか。
アジト――という言葉が相応しい。
「一応警察の施設だ」
「ここが？」
C地区っぽい。
「住所的には君達の住むエリアに隣接するエリアになる。はっきりとは教えられないが、商用地区にある、とあるビルの地下だ」

百二十三ということですかと不破が言う。
「教えられないよ」
「あ」
思い出した。
「神崎ケミカルって――百二十三エリアやん。ラボがあるって」
美緒が言っていた。
小山田は渋い顔をした。
「油断がならないな。やはり」
「神崎ケミカルを監視するための部屋ということですか」
「そういう訳じゃない。私の部署は一般の警察機構や各地区のエリア警備とは分離して活動するのが基本だからね。こうした拠点は必要なんだ」
厭な感じですねと不破は言った。
「私は超法規的という言葉が嫌いなんです。一般市民を監視するというのは遵法行為なんですか」
「警戒とか用心とかいう言葉を知らないかね」
「この子達も用心されていたと？」
「何度言ったら解るんだ。この児童達を護っていたつもりなんだよ私は」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

「護れてないやん」
律子はつい口を挟んでしまった。
「まあ、今回は助けて貰ったってことになると思うけど――うちのじいちゃんはやられたんやし、美緒だって」
「都築美緒に関しては私達も騙されていた可能性が高い」
「騙されていた？」
「彼女の能力は測り切れない。都築美緒は、我々の動向を把握して行動していたと思われる。完全に裏をかかれていたんだ」
「あの爆発は？」
「判らない。彼女の家に複数の人物が侵入したことを目視したという報告があったので、慌てて行ってみたのだが――」
「目視？」
「集像機は当てにならない。来生君の家に侵入された段階で敵はこちらの監視をある程度察知していたということが判ったし――そもそも都築美緒はデータを改竄し放題だからな」
「あんた現場にいたってことなん？」
「着いた途端に爆発した。もう少しで巻き込まれるところだったよ。被害状況を確認し、侵入者を検挙しようとしたのだが、邪魔された」

「誰に」
未登録住民だと小山田は言った。
「いや、もっとはっきりしている。私の行動を阻止したのは、麗猫だ――」
「麗猫が」
ずっと黙っていた葉月が、か細い声を上げた。
「どうして？」
「いや、多分私を犯人一味と間違えたんだろう」
こそこそしているからですと不破が言った。
「――麗猫は見張っていなかったんですか？」
「見張りようがない。何処にいるのか判らないんだからな。まあ百二十二のC地区全体の警備レヴェルは上がっているが、それだって個人をマークするのは無理だ。と、いうよりだね、私を襲ったのは麗猫ではなく、あの不良刑事だよ」
「橡さん？」
不破は眼を円くした。
意外に子供っぽい表情になる。
「いきなり組みつかれて、揉み合ってるうちに天井が崩落した。私は逃げたが、あの男は伸びた」

「死んだんですか？」
「いいや。死んではいない。麗猫の仲間らしき連中が保護したように見えたが――こちらも確認できていない。ただ、ひとつだけ確実なことがある」
「何です？」
「あの爆発は都築宅への侵入者が引き起こしたものではない――ということだ」
「はあ？」
「そうだったなら、何か手抜かりで事故を起こしたか、然もなくば、大昔に流行した自爆テロということになる。あの爆発で、侵入者と思しき連中は死んだ。報告を信用するなら、まだ一人行方不明だが」
「じゃあ、美緒は」
「都築美緒は現場にはいなかったんだ。侵入者は留守宅に侵入しようとして爆発で死んだ」
――美緒は無事か。
「なら、あの爆発は」
美緒が仕掛けたんかと律子は尋いた。
「可能性はある。何が爆発したのかまるで判らないらしいが、手に持って持ち込める小型爆弾のようなものの破片は発見されていないようだ。発見されたのは、ガスボンベのようなものの残骸らしい」

「ガス？」
「そうだな。君のお祖父さんを眠らせたものと同種のガスが入っていたのではないかと推測しているのだが――残念ながら破片から残留物は検出されていない。成分も判らない。もうひとつ、侵入者の遺体は入り口と廊下にあったようだ。つまり、ガスを注入した後、都築美緒の部屋に入ろうとして、爆発に遭ったということになる」
「美緒はいなかったんやろ？」
「不在だということを侵入者は知らなかったのだと思うね。規格外住宅だし不在表示は出ない。都築宅を監視する集像機の映像は、都築美緒自身に傍受され改変されていたと思われる」
つまり――と小山田は人差し指を立てた。
「都築美緒は、侵入者が近づいていることを察知してこっそり部屋を抜け出した。侵入者はそれを知らずに室内にガスを注入し、それが何かに引火して侵入直前に爆発を誘因し、あの事故が起きた――というのが私の見解だ」
じゃあ美緒は無事なんですねと葉月が言った。
「無事かどうかは判らない。あの事故の死傷者の中に彼女はいない、というだけだ」
「気休めでももう少し安心できる言い方したらいいと思うけど。警察やったら」
「市民と交流の少ない部署なんだよ。我々も捜索はしている。ただ見つからない」

あの娘が簡単に捕まるとは思えない。
知能は高いのにブッ壊れてる美緒のような人間は、多分こういう、小山田みたいな或る意味型通りの人間の手に負えるものではないのだと律子は思う。
「とにかく、死んだのは侵入した方だ」
「侵入したのは何者だったんです」
「不明だ」
「端末情報は？　不携帯だったんですか？」
「遺体が所持していた端末は破損が激しい。物理的に失われてしまえばデータの復旧は不可能だ。端末のロットナンバーから個人を特定しようとしてみたのだが、駄目だった」
「駄目？」
「あり得ないことだがね。いや、あってはならないことなんだが――未登録端末だったんだよ」
「勝手に作ったものということですか？」
――端末って。
作れるんだと、律子は思った。
「ただね、制服のようなものを着用していて、それには見覚えがある。厳密には類似しているというだけだが――デザインが似ている」

「何とです」
「KSS――神崎・セキュリティ・サーヴィス」
「カンザキ？」
「神崎グループ系列の警備会社だ。登録された正規のエリア警備だが、公的地域の警備業務はしていない。神崎コーポレーションの所有する設備内警備と敷地内捜査をする会社だよ」
「私設警察ということですか」
「分割民営化された後、エリア警備はどこも私設といえば私設だよ。自前の警備会社を持つというのは大きな企業ではままあることだ。企業秘密などもあるからだろう。ただ敷地外の捜査権はないし、警察への情報提供や無条件協力は義務づけられている」
「そこの人間だと？」
制服のデザインが似ているだけだと小山田は繰り返した。
「ヘルメットも着用していなかったし、マークもついていない。色も違う。素材とデザイン、それから装備はほぼ同じだがね」
それだけだと小山田は言った。
「でも――あなたは確信しているようですが」
「カウンセラーという職種の人は皆こんなに扱いにくいものなのかね。まあ――可能性は高いと思っている。そもそも、神経ガスらしきものを使用しているし」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton